



C.P.I. Mates

NO.64

2005. 1. 31

The Committee for Promotion to Innovate Japanese People by Educational and Cultural Contact, since 1979

津波で被災した里子家庭の 救済を開始します



雪の中で募金活動する在日の国費留学生たち



寺定非営利活動法人

The Committee for Promotion to Innovate Japanese
People by Educational and Cultural Contact, since 1979

C.P.I.教育文化交流推進委員会

1810005 東京都三鷹市中原 2-16-9 e-mail: cpi_mate@mh.biglobe.ne.jp
2-16-9 NAKAHARA MITAKA, TOKYO 1810005 JAPAN TEL& FAX:0422-49-3808

平成 17 年 1 月 28 日

会員の皆さま

C. P. I の活動にご協力いただいている皆さま

(特活) C. P. I. 教育文化交流推進委員会

会長 小西菊文

事務局長 三谷誠一

インド洋大津波による罹災里子家庭への救済支援活動を開始します

前略 今回のスマトラ沖大地震によるインドネシア、スリランカ両国の被害について、皆さまから暖かいお心遣い、熱意あるお問い合わせを戴きました。

全体の被災状況・救援状況は、各種報道されているとおりですが、私ども、教育支援してきました大切な里子たちの具体的な安否および被災の状態を早く知り、教育里親団体として手を差し伸べたいと、現地事務所からの「調査完了」報告を一日千秋の思いで待っておりました。ようやくお知らせできる仕儀となり、ご連絡致します。

1. 罹災状況

1) インドネシア：

C. P. I. が支援する里子は、すべてジャワ島在住者ですので、今回の地震、津波による直接的な罹災の報告は受けておりません。

2) スリランカ：

調査がほぼ完了しました。SNECC 理事会と協議して被災別救済目標を立てました。

別表にまとめましたとおり、募金目標を 250 万円と致します。

ご協力をよろしくお願い申し上げます。

家屋全壊家庭には：250,000Rs 相当で建築材料・作業員を手配いたします。

家屋半壊家庭には：50,000Rs 相当で修繕材料・作業員を手配いたします。

家財流出家庭には：15,000Rs 相当で家財道具を購入手配いたします。

里子の兄弟姉妹に：5,000Rs 相当で、学用品の援助をいたします。

AL 試験準備のノートを流した里子には：別の学生のノートからのコピーを行います。2,500Rs

(注：教育里子自身への 2005 年学用品供与は、一月の奨学認証式で行いました)

すでに C.P.I.地域会からの呼びかけで先行して救援金を出してくださった方は、上記趣旨の今回とりまとめます救済募金にご賛成いただければ幸いに存じます。

昨年 12 月 31 日の C.P.I.事務局からの案内で大使館を通した募金をして下さった皆様へ：
スリランカ大使館から C.P.I.本部に e-メールが入りました。以下のホームページで、募金使途の報告が行われています。おかげさまで、救援初期の募金として大変感謝されました。

www.embassy-avenue.jp/srilanka/index.html

2. 私たちは何をすべきか

大きな被害を受けたスリランカの支援が急務と考えております。里子たちの状況をスリランカ事務所から以下のように伝えてきております。

- ①学校が避難所になっているため、1月10日からの新学期が始められない(1/30までに再開できるよう政府は対策を取っている)
- ②衣類、食料などは生活に困らない程度に支援されている。
- ③もともと被害の多い東部の地域では、被災者は自分の親戚の家に移動しているため、キャンプ生活者は減っている。孤児になった子どもも同様である。
- ④教科書やノートを失くした子どもが非常に多い。教科書が政府からの貸与なので、参考書の代用になるのは自分のノートしかない。A/L, O/L 試験を間近に控えた子どもらは大打撃を受けている。

1) 今回の里子家庭救済募金の趣旨

津波被災にあった教育里子たちに必要なのは一刻も早く学業に戻ることであり、迫っている O/L 試験、A/L 試験に合格することです。逆境にめげず前進しようとしている彼らに力を差し伸べて行きたいと考えます。(別紙新聞報道を参照)

そのために、通常の支援とは別途に、特別な救済を行います。

スリランカ人権委員会の勧告にもあるように(新聞報道参照)、被災地のほかの住民からの嫉妬等を生まぬよう、細心の注意を払うとの現地センター責任者からのメッセージをお伝えしておきます。

2) 今後の長期にわたる救済活動について、考えてまいりましょう。

“長い内戦が終わり、やっと和平、そして復興へと幸せを掴みかけたのに・・・“ジャフナに近いムライティブの老人の言葉が胸を刺します。そして、地雷が海に浮かび大変危険な環境にあるとの報道もあります。

スリランカの津波被災の惨状が世界の人々の目に触れ、救済の気運が高まっている今こそ、戦禍による孤児救済もできる機会がおとずれていると考えます。

2005年一月の里子新聞へのスリランカ事務所からの特別寄稿をご覧ください、ともに考えていきたいと思っております。

罹災里子家庭への救済募金の依頼

《振込み口座》

郵政公社： 口座名：C.P.I 教育文化交流推進委員会

口座 No.： 00180-9-405237

恐れいりますが、通信欄記入等を、次のようにお願いします。

- (1) 津波救済募金 と明記下さい。
- (2) ご氏名およびご住所 会員 No. または 紹介会員名
- (3) 領収書は、振込用紙の控えで代用をお願いします。